

---

---

**「男女共同参画・若手問題シンポジウム」**  
**「博士号を取得して多様なキャリアパスを手に入れる」**

Alternative Careers after PhD Course

---

**オーガナイザー**：日本生物物理学会 男女共同参画・若手問題検討委員会

**Organizers**: Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women and for Encouraging Young Researchers  
in the Biophysical Society of Japan

**日時**：2013年10月30日（水）12:30～13:20（ランチョンセミナーの時間帯）

**場所**：C会場（国立京都国際会館 Room C-1）

**昼食**：お弁当とお茶が無料で提供されます。ただし、数に限りがあります。

**形式**：講演会

**講演者**：3名を予定

---

**概要**：昨年に引き続き、本年のシンポジウムも「博士号を取得して多様なキャリアパスを手に入れる」をテーマとして行うことになりました。景気は若干上向きであるとはいえ、相変わらず、大学、研究機関および企業における新規雇用が少なく、若者が社会で活躍する場が非常に少ない状態が続いています。大学で博士号を取得して研究者としてがんばっていかうと考えていたのに、思うように道を拓くことができないという話も、残念ながらよく聞くようになり、このことで、若い方々が博士号を取得する道に進まなくなってきました。博士号取得者の減少は、長い目で見ると日本の科学技術力の低下につながり、悪循環に陥ることが懸念されます。

この状況を打開するために、日本社会における博士号取得者の評価を高めることも重要ですが、大学で博士号を取得したら、次は大学や研究所で研究をするものであるという固定観念を見直す必要もありそうです。博士号を取得した後に企業で活躍されている方はかなりおられます。また、政府や大学も、博士号取得後のキャリアに関する様々な取り組みを行ってきています。

そこで、今回は生物物理学の分野で、[1] 博士の学位を取られた後、企業の研究所に勤められている方、[2] 修士修了後、公的研究機関に勤務された後に論文博士号を取得された方、[3] 修士修了後、製薬会社に勤務され、博士号取得を目指して会社から大学に派遣されている方について、企業・アカデミアでご活躍の男女若手研究者3名の方をお招きし、それぞれのご経歴に基づいて博士号取得の意味について話していただくことを予定しております。これらのお話を聞きながら、フロアからのご意見や質問を受け、時間が許す限りディスカッションをしていきたいと考えております。特に博士前期および後期課程学生のなまの声が聞こえてくることを期待しています。

老若男女を問わず、ご関心のある方々の参加をお待ちしております。